４　白銅密教法具　１面、４口　［有形文化財（工芸品）］

［所在地］　奈良市西大寺芝町

［所有者］　西大寺

［法　量］　金剛盤　縦18.0cm・横26.0cm

五鈷鈴　高18.0cm　独鈷杵　長16.4cm　三鈷杵　長16.4cm

五鈷杵　長17.4cm

［時　代］　鎌倉時代

［概　要］

密教の修法に用いられる密教法具である。金剛盤・五鈷鈴・独鈷杵・三鈷杵・五鈷杵の５種から構成される組法具として伝来した。鍍金を施さない白銅鋳製とする珍しい作例で、鈴身の銅をわずかに膨らませる量感のある姿形や、杵の把部にみられる照り起りをつける蓮弁、楕円形に作る鬼目などの形状から、鎌倉時代後期の制作とみられる。白銅製の組法具としては現存最古の遺品である。

保存箱に附属する古文書によると本品は、蒙古襲来の折りに叡尊が石清水八幡宮で異国調伏の祈祷を修した際に用いられたものと伝えられており、叡尊ゆかりの法具として西大寺内でも重要視されてきた。とりわけ五鈷鈴は、寺内で「鈴虫」と称され、音色の清らかなものとして珍重されている。

本品は、白銅製の組法具として稀少であるのみならず、西大寺を復興した叡尊に関わりの深い遺品としても注目され、高い価値を有するものである。